

(別紙2-1)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月12日

【評価実施概要】

事業所番号	4271200638		
法人名	有限会社 ムラオカ		
事業所名	グループホームひだまり		
所在地	長崎県東彼杵郡波佐見町長野郷380-17 (電話) 0956-26-7311		
評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ		
所在地	佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号		
訪問調査日	2007年9月12日	評価確定日	2007年10月19日

【情報提供票より】 (19年 4月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年	7月	1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	11人, 非常勤 4人, 常勤換算 13.2人

(2) 建物概要

建物構造	重量鉄骨	造り
	1階建ての	1～1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	5,000+実費 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	900 円	

(4) 利用者の概要 (4月10日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	9名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	4名		
要介護5	—名	要支援2	—名		
年齢	平均 83.5歳	最低	68歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中村内科医院 八並整形外科 はいき歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、道路から少し入った場所に位置し、平屋建ての中に二つのユニットが設けられています。周りには自然が多く残り、敷地から道路までは距離があるため、ご利用者はスタッフの見守りのもと自由に外出されています。ホームでは、地域のお祭りと同時に、ホームのお祭りを催し、ご利用者はご家族と共にウッドデッキや駐車場及び開放感のある大きめの窓ごしに、打ち上げられる花火を楽しんでおられるとのこと。また、ご利用者に近隣の温泉を楽しんでいただける支援も行われています。運営者でもある管理者は、理念にも掲げられている「楽しく・明るく・笑顔で」というキーワードを大切にされ、スタッフにもそれが浸透し、実際の支援の中でも実践されているホームです。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価結果を踏まえた改善に取り組まれています。 改善課題を明確にされ、注意が必要な物品の保管場所の検討など可能なことから取り組まれています。個別に確認すれば、まだ不十分な事項もありますが、今後更に改善していきたいといった積極的な姿勢がうかがえます。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価の意義はスタッフに浸透しつつあります。 自己評価は各ユニットから1名選定され実施されています。今回の自己評価をもとに改善活動も開始されています。今後は自己評価を全スタッフが共に実施し、更なる課題の共有に努められることを期待します。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 始まったばかりの状況で、これからの活動に期待します。 第一回目が開催されたのみで、ホームの活動や特性について紹介されたくらいの状況です。今後は、地域中でのご利用者の支援を更に充実するために、認知症の理解や災害時の協力などについての議題が計画されています。評価結果を活用し課題を共有化するなど、積極的な取り組みを期待します。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご家族の意見を聴取し運営に反映させた実績があります。 誕生日などのイベント時や面会時にご家族の意見を聴取するよう努められています。ご家族の意見を反映させ畳の居室を整備するなどの事例も確認できました。今後もご家族の意見を運営に反映されるよう、継続しての取り組みを期待します。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域行事への参加や地域との交流に努められています。 小学校や高校との交流やホームヘルパー実習受入など、地域との関わりやホームの地域での役割を大切にされています。また、管理者自ら地域の清掃活動に参加されるなど、積極的な取り組みが行われています。今後も、多面的な地域との関わりについて継続した取り組みを期待します。

(別紙2-2)

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念を掲げ、実践に向けた取り組みが展開されています。現在、地域との関わりを含めた理念の見直しを行われているところです。	○	現在の見直しにより、地域密着型サービスの役割について、理念に反映させる予定とのことです。出来上りを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、共有スペースに掲示され、唱和やミーティング時等を活用した周知への取り組みが見受けられます。また、パンフレットにも掲載されており内外への周知に努められています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の中のホームという考えが定着しており、地域の清掃活動へも参加されています。その他の実績としましては、近隣の高校の体育祭の見学や小学生との交流会が行われています。また、小学生の見学やホームヘルパー実習受入などの実績もあります。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果を活かし改善活動が行われています。しかし、自己評価については、毎回スタッフが当番制で実施している状況で、十分な取り組みとは言えません。当該制度の意義などについては、スタッフに浸透しつつあります。	○	自己評価については、事業所全体で取り組まれることにより課題等の真の共有化が図れます。今後は全てのスタッフで自己評価に取り組まれることを期待します。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議については今年の8月から開催されており、ホームを理解していただくための内容が議事録により確認できました。	○	今後は、評価結果についての説明など議題を充実させ、地域を含めた課題の共有化に努めて頂くことを期待します。また、開催頻度についても再考が求められます。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とは、常に連携を図っているが、まだ十分ではないとのこと。今後更なる連携のための検討をしたいとのこと。	○	事業を行っていく上での課題は、市町村担当者と協議すべき事項が多々存在すると思われ。事業所のみで抱え込まず、協働して問題解決に取り組んでいく必要性について検討いただくことから取組まれては如何でしょうか。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	介護計画書の同意や毎月発行される「ひだまり新聞」及びお便りによる状況報告が確認できました。金銭管理の報告について書面での確認はできませんでした。また、介護計画の説明方法の引継ぎの実施状況も確認できませんでした。	○	金銭管理は、説明同意の痕跡が残るようご家族等の署名などを台帳等に頂くことが望まれます。また、介護計画等については説明者が変更になることで、伝わり方が違ってくることへの配慮が必要です。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	誕生会などのイベント時や面会時の声かけなどにより働きかけが行われており、個別に対応されています。事例としては畳の部屋を整備されたことなどが聴取できました。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新任のスタッフの紹介は、毎月発行の「ひだまり新聞」で行われていますが、退職の際の連絡などの仕組みは確立されていません。	○	スタッフの交代は、利用者にはもちろん、ご家族にも重要な事項です。離職時などスタッフ交代時には、ご家族へ確実に情報が伝わる仕組みづくりが求められます。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「ケアネットはさみ」やその他研修会への参加実績があり、研修報告書による共有の仕組みが確認できます。ミーティング時には、外部研修で学んできた内容のうちホームに活かせる事案について発表が行われるなど、積極的な取り組みが見受けられます。しかし、研修計画等は確認できませんでした。	○	スタッフ育成の面から、スタッフ一人ひとりの研修履歴等を把握し、教育計画を作成することを推奨します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に1回程度「ケアネットはさみ」の研修会へ参加する際に同業者との交流があり、日常的には、地区内のホームとの情報交換が行われています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には必ず居宅や病院を訪問し、ご本人やご家族及び医師などと相談を重ねたうえで、入居となるよう努められています。また、体験入居の実績も記録で確認できました。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理に関する事など、ご利用者から教えられることは多々あり、また、ご利用者から励まされることも多いとのこと。訪問時には、ご利用者からスタッフに対する労いの言葉も聞くことができました。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で意向の把握に努められています。把握したことはカルテや申し送りノートに記録され共有化も図られています。	○	日々の気づきの記録については断片的にカルテ等に残すだけではなく、積み上げられ介護計画の見直しなどに活かせるような仕組みづくりを推奨します。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりの中で聴取したご利用者やご家族からの情報及びスタッフの気付きなどについて、ミーティング時に検討され、介護計画が決定されています。また、ご家族による介護計画書の同意についても確認できました。しかし、ご家族が介護計画策定のミーティングに関わる事例は確認できませんでした。	○	介護計画策定時のミーティングへのご家族の参加など、ご家族の関わりについてもご検討下さい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月ごとに、介護計画について評価し見直しが行われています。また、ご利用者の状態変化があった場合の随時の書き込みや削除など、介護計画の変更事例も確認できました。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者やご家族の要望や状況に応じて、近隣のデイサービスの利用を支援されたり、お盆やお正月を中心に、居宅で過ごされる時間を持てるよう支援されたりしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者は、ホームの協力病院の他、従来からのかかりつけ医で医療を受けておられます。かかりつけ医はご利用者等の希望により選定されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療的対応は医療機関との連携により取り組んでおられます。終末期についての同意書も確認できました。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いや対応などご利用者のプライドに対する配慮は見受けられます。個人情報の漏洩防止などへの取り組みもうかがえます。しかし、個人情報保護法への対応は十分な状況とは言えません。	○	個人情報保護についての方針の整備など、早期対応が求められます。また、個人情報保護法についてスタッフ全員の理解を深めるための取り組みを推奨します。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはありますが、声かけを積極的に行いご利用者の意向を踏まえた対応を心掛けてあります。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	訪問時には、ご利用者とスタッフが下ごしらえから後片づけまで協働されていました。食事中は、スタッフが同じ食事を同じテーブルで食し、支援が必要なご利用者対応も行われています。旬の食材として、ホームの畑で取れたものを食されるとのことです。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は2日に一回で、曜日や時間帯が設定されています。ただし、ご利用者の希望に応じて設定時間外や別日でも対応されています。また、ご利用者は2週間に1回程度、近隣で温泉を楽しむことができます。	○	入浴時間や曜日などを設定せず、利用者の希望に応じた柔軟な対応が今以上に可能になるよう、今後の体制整備に期待します。異性介助については、ご利用者やご家族の心理面も踏まえて再検討されることを期待します。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片づけ、カレンダーめくりなど自発的に行われています。ご利用者の生活歴や職業歴などを活かし試行錯誤した事例も聴取できました。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に配慮した上で、日常的に外の空気に触れることを心掛けておられます。ウッドデッキに出ただいたり、散歩に誘導するなどの取り組みも見受けられました。車椅子での支援も行われていました。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠されることなく、ご利用者の外出は、見守りにより対応されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の火災訓練を実施されています。地域の消防団との連携も図られています。しかし、食料品の備蓄や災害時の必要品などの準備はまだ十分とは言えない状況です。	○	食料品の備蓄や必要品の準備など様々な災害を想定した対策が必要です。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については、栄養士により毎月チェックされ、バランスなどについて専門家の視点で検討されています。嚥下状態や食事量の個別対応にも配慮されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには、季節に応じたご利用者の手作りの作品が飾られています。また、本なども置かれ、ご利用者は各々読書をされたり、テレビを見られたりしてすごされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込み品には特に制限を設けられておらず、位牌などの持ち込みもあります。ご家族と相談され馴染みのものを持ってきて頂くよう働きかけも行われているとの事です。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票を添付すること。